

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和元年7月29日※1
(前回公表年月日:平成30年7月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
福岡医療専門学校	平成19年4月1日	藤瀬 武	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1 (電話) 092-833-6120																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人福岡医療学院	平成11年4月1日	理事長 藤瀬 武	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1 (電話) 092-833-6120																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
医療	医療専門課程	理学療法科	—	平成22年文部科学省 告示第156号																											
学科の目的	専門職業人としての知識・技術・人間性を身につけ、自己研さんに努めながら幅広い視野から課題を理解し、地域医療に貢献できる理学療法士を養成する。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
4年	昼間	3420時間	2331時間	114時間	835時間	0時間	642時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
320人	272人	0人	12人	26人	38人																										
学期制度	■1学期: 4月1日～7月31日 ■2学期: 8月1日～12月31日 ■3学期: 1月1日～3月31日		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目の成績は100点満点とし、定期試験及びその他の各種資料(定期試験以外の試験、学習態度、出席状況等)に基づいて決定する。原則として60点以上を合格とする。実技実習、臨床実習の成績についても同様とする。																												
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月2日～8月25日 ■冬季: 12月20日～1月5日 ■学年末: 3月14日～3月31日		卒業・進級条件 学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないものとする。																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 複数担任制を導入し補充指導等とおして、きめ細やかなサポートを継続している。 日々の出席状況をクラス担任が把握し、欠席が続く者には保護者へ連絡し、長期欠席にならないよう取り組んでいる。学生支援室を設置し、学生の修学、生活および課外活動などの相談を受けつけ支援する。 附属クリニックにおける専門医の相談の場を設けている。		■課外活動の種類 ① トレーナー活動 全国高等学校野球選手権福岡大会・高校部活動・高校体育祭・専門学校体育大会等 ② 部活動 女子陸上競技部・バドミントン部・サッカー部・ソフトテニス部・バスケットボール部・バレーボール部・野球部・ソフトボール部・剣道部・柔道部・総合運動部・卓球部・少林寺拳法部・軽音楽部・東洋医学研究部・ヘルス&ビューティ部等 ③ ボランティア活動 介護老人保健施設ひのき・デイサービス善哉等																												
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 甘木中央病院、がくさい病院、くまもと芦北療育医療センター、倉敷中央病院、久留米大学病院、くろぎ整形外科、黒田整形外科医院、光風台病院、佐賀リハビリテーション病院、さく病院、桜十字福岡病院、佐田整形外科病院、白石共立病院、誠愛リハビリテーション病院、田主丸中央病院、筑後川温泉病院、通所介護ライズ、TMGあさか医療センター、徳之島徳洲会病院、戸塚共立第2病院、博腎会病院、ひらまつ病院、福岡県済生会八幡総合病院、福岡新水巻病院、福岡みらい病院、ままだ整形外科博多ひざスポーツクリニック、水戸病院、牟田病院、村上整形外科スポーツクリニック、八潮中央総合病院、やら整形外科、耀光リハビリテーション病院、ヨコクラ病院、よこすか浦賀病院、米盛病院、リバーサイド御薬園等(五十音順) ■就職指導内容 就職支援室を中心とした就職支援・指導を実施している。セミナー・講座を開催し、履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な指導を行っている。		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年7月31日時点の情報)																												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士国家資格</td> <td>②</td> <td>53人</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>JATI-ATI</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	理学療法士国家資格	②	53人	53人	JATI-ATI	③	23人	23人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
理学療法士国家資格	②	53人	53人																												
JATI-ATI	③	23人	23人																												
			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																												
			■自由記述欄																												
			■主な学修成果(資格・検定等)※3 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>:</td> <td>53</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>:</td> <td>53</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>:</td> <td>53</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>:</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td>:</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■その他進学者数</td> <td>:</td> <td>0</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>					■卒業生数	:	53	人	■就職希望者数	:	53	人	■就職者数	:	53	人	■就職率	:	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	:	100	%	■その他進学者数	:	0	人
■卒業生数	:	53	人																												
■就職希望者数	:	53	人																												
■就職者数	:	53	人																												
■就職率	:	100	%																												
■卒業者に占める就職者の割合	:	100	%																												
■その他進学者数	:	0	人																												
			(平成30年度卒業生に関する平成31年7月31日時点の情報)																												

中途退学の現状	<p>■中途退学者 28名 ■中退率 9.3%</p> <p>平成30年4月1日時点において、在学者300名（平成30年4月1日入学者を含む） 平成31年3月31日時点において、在学者272名（平成31年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的事由 成績不良</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 奨学金や教育ローンの拡充をはかり、経済的困難な学生のサポートに努めている。 入学予定者に対するサポートデスクを立ち上げ、入学までの学力向上を図っている。 複数担任制を導入し補充指導等をおして、きめ細やかなサポートを継続している。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有</p> <p>■専門実践教育訓練給付：非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：有</p> <p>評価団体名：特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 受審年月：平成29年3月 評価結果：URL: http://www.jusei.ac.jp/</p>
当該学科のホームページURL	URL: http://www.jusei.ac.jp/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員には、以下の両方または何れかの条件を満たす者を選定している。

1. 業界団体に所属し、要職に就いている有識者
2. 現場を指揮し、医療の最先端で活躍している院長や所属の長
このような業界全体の動向、実務に関する知識や技術に関する知見を有する委員からの要請等を教育課程編成委員会にて協議していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本学の教育課程は、教育課程編成委員会の意見を踏まえて、教務委員会が編成する(学則第14条及び学校会議規程第4条)。

教育課程編成委員会の位置付け及び審議内容が採用される過程は、以下の通りである。

- ① 第1回教育課程編成委員会では、前年度の教育課程を実施した結果や当年度の教育課程の進捗状況等が報告される。委員による審議が行われ、委員から意見を聴取する。審議内容及び意見は教務委員会に直ちに報告され、当年度の教育課程や指導方法等の改善に活用される。
- ② 第2回教育課程編成委員会では、第1回委員会で聴取された意見に対する改善策の実施状況について審議が行われる。その審議結果を踏まえて、次年度の教育課程の編成に対する意見を委員から聴取する。
- ③ 第2回委員会で聴取した意見は、副校長、学科長、専任教員及び非常勤講師が参加する次年度教育内容会議において審議される。そこで審議した結果を踏まえて、教務委員会が次年度の教育課程を編成する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

教育課程編成委員会

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
藤瀬 武	福岡医療専門学校 校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
滝沢 哲也	福岡医療専門学校 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
坂口 文宏	福岡医療専門学校 理学療法科 学科長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
渡邊 剛	吉村病院 理学療法士	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
坂口 重樹	Synapse 代表	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	②
堀 大輔	福岡スポーツ理学療法交流会 共同代表	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	②
遠藤 正英	公益社団法人日本理学療法士協会 代議員 公益社団法人福岡県理学療法士会 理事 医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院リハビリテーション部 理学療法科 科長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数は年2回。開催時期は毎年6月と11月。

(開催日時実績)

第1回 平成30年 6月 9日(土)15:00～17:00

第2回 平成30年11月24日(土)15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員よりX線やMRIなどの画像を読み取る力や、撮影方法を習得することが今の医療現場では必須であるとの意見があった。また、訪問リハビリテーションにおける重症患者に対応するため、喀痰吸引の技術が今後必要になるとの意見が出された。これらの意見を活用するため、令和2年度入学生から適用される指定規則の改正にあわせて、本校診療放射線科の教員と連携した医用画像に関する講義や、看護科教員による喀痰吸引技術の実技指導を授業に取り入れる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

検査測定・評価及び治療に関する知識、技術を全般にわたって向上させるために、臨床実習指導者は理学療法に関し相当の経験を有する理学療法士とし、免許を受けた後5年以上業務に従事した者であり、かつ、厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会等を修了した者とする。

臨床実習は、毎年行われる臨床実習指導者会議で決定した方針に従い、学校と実習施設双方の協力のもと臨床実習を実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

臨床実習を実施する前に、連携先の実習施設の指導者を本校に招き、臨床実習指導者会議を実施する。指導の方針の確認並びに、実習生の評価方法の統一を図る。

臨床実習先では、学内教育で修得した評価法を、臨床実習指導者の指導・監督の下、個々の患者に適応させながら実践する。現場で得られた評価結果に基づき治療プログラムの作成し、治療を実践する。その後、定期的な再評価を実施することにより、作成したプログラムの妥当性を臨床実習指導者とともに検証し、知識・技術を深化させる。

本校教員は定期的に臨床実習施設を訪問し、臨床実習指導者と連携をとりながら実習生を指導する。実習終了時には、福岡統一形式臨床実習成績評価表に準じた各施設でのA～E判定(70点分)に加えて、症例発表やレジュメなどの学内評定(30点分)を加算し、臨床実習の評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習 (見学実習)	病院・施設の機能、各医療従事者と患者等の関わりや理学療法士の業務と範囲、さらに患者等の抱える心理的・身体的・社会的な種々の問題点について学ぶ。	福岡大学病院・久留米大学医療センター・済生会大牟田病院・牟田病院・鶴田整形外科等 総数60施設
臨床実習 (ADL体験実習)	介護支援を実体験することにより、施設利用者のADLを中心とした活動制限の実態を把握する。また、態度や話し方などをはじめとする情意領域での気づきを深める。	介護老人保健施設 レ・ハビリス桜十字・介護老人施設保健施設 アルテンハイムヨコクラ・老人保健施設ひいらぎ・とりかい介護老人保健施設等 総数19施設
臨床実習 (検査測定・評価実習)	検査測定実習では、既習範囲の基本的検査及び測定の実施法、選択、解釈について、実際の患者等に対して実施する。同時に患者等へのアプローチや問診、検査方法(手順)等の技能及び態度を学ぶ。 評価実習では、臨床的問題を解決するために、理解している知識を総動員し、適切な情報を集め、問題を同定し仮説を証明するための計画を立てる。それによって得られた結果の解釈を分析・統合し、治療方針を決定できるようにする。	福岡記念病院・久留米大学病院・済生会大牟田病院・ヨコクラ病院・西福岡病院等 総数71施設
臨床実習 (長期実習Ⅰ)	臨床実習指導者の指導・監督のもと、検査測定・評価実習で修得した技術を基にプログラムを作成し、治療を実施することによって、臨床現場に必要な基礎能力を養い、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。	福岡記念病院・ヨコクラ病院・佐田整形外科病院・牟田病院・高良台リハビリテーション病院等 総数73施設
臨床実習 (長期実習Ⅱ)	臨床実習の総括として位置付け、臨床実習指導者の指導・監督のもと、長期実習Ⅰでの経験を活かし、一貫したプログラムの作成、経過観察、治療及び再評価をとおして、その適否や有効性を深く考察することにより臨床応用能力を修得する。	吉村病院・牟田病院・誠愛リハビリテーション病院・宗像医師会病院・福岡みらい病院等 総数56施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校は、教員が学生に対し、社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より職業実践的な教育をすることを目的に掲げている。

この目的を達成するためには、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、次に掲げた事項を進めることにより、教員の資質向上の支援を行っている。

1. 研修規程を定めて、計画的かつ継続的な研修受講を支援する。
2. 本校附属臨床施設(福岡医療学院整骨院・福岡医療学院鍼灸院・福岡医療クリニック)での臨床経験を積むことにより、実際の現場での知識・技術の修得をすすめる。
3. 外部機関(学会・研究会・研修等)に対して会場提供を積極的に行い、様々な分野での知識修得を奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ハワイ研修」(連携企業等: Rehabilitation Hospital of the Pacific 等)

期間: 4月10日(火)～4月15日(日) 対象: 教員

内容: リハビリテーション医療の海外視察において、日本と比較して保険制度・理学療法士の教育・地位・治療における考え方などの相違点を知る。また、治療・訓練においては、その考え方についても意見交換をとおして深く学ぶ。

研修名「理学療法臨床研修」(連携企業等: 古賀整形外科医院)

期間: 4月15日(日) 対象: 教員

内容: 徒手療法を中心とした実技講習会。整形外科疾患の患者の治療ポイントやアプローチ法について学ぶ。

研修名「台湾研修」(連携企業等: 中国医薬大学、台北医学大学 等)

期間: 4月22日(日)～4月26日(木) 対象: 教員

内容: 国内にない資格の理解と最先端小児リハ・脳性麻痺の把握。海外との医療の違いを理解し、今後の指導内容を向上させる。

研修名「理学療法臨床研修」(連携企業等: BiNI COMPLEX JAPAN)

期間: 5月26日(土)～5月27日(日) 対象: 教員

内容: 統合的運動生成概念・統合的自己組織化の理解を深める。

<p>研修名「入谷式足底板中級セミナー」(連携企業等:足と歩きの研究所) 期間:6月10日(日) 対象:教員 内容:足底板作成に関する講習会。足底板作成のポイントや、動作評価法等を学ぶ。</p>
<p>研修名「久留米大学解剖実習」(連携企業等:久留米大学) 期間:6月20日(水) 対象:教員 内容:検体解剖演習を実施し、骨、筋、関節、神経、皮膚といった解剖学的要素を十分に把握する。</p>
<p>研修名「理学療法臨床研修」(連携企業等:SJF学会北支部) 期間:7月28日(土)~29日(日) 対象:教員 内容:関節運動学に基づく関節内運動および関節の潤滑機構に基づく接近技術を用いて、関節機能障害を治療し、自動・他動運動における関節の動きを、量的・質的に改善する運動療法技術を学ぶ。</p>
<p>研修名「認知神経リハビリテーション学会」(連携企業等:一般社団法人認知神経リハビリテーション学会) 期間:8月25日(土)~8月26日(日) 対象:教員 内容:リハビリテーション脳科学、認知神経理論を通して、基本的な知識と関わり方を実技講習を通して深める。</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p>
<p>研修名「福岡県理学療法士会 第1回福岡東地区研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:6月7日(木) 対象:教員 内容:日本理学療法士協会の新人教育プログラム改定の方角性から、今後求められる理学療法士像を捉え、教育に活かす。卒前教育について求められていることを捉え、教育に活かす。</p>
<p>研修名「理学療法士講習会基本編(理論)」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:7月22日(日) 対象:教員 内容:診療参加型臨床実習について、理解を深めるとともに、具体的な進め方を学び、臨床実習の質を向上させる。</p>
<p>研修名「平成30年度 中堅教員研修「新任指導力」」(連携企業等:一般社団法人 福岡県専修学校各種学校協会) 期間:7月28日(土)~7月29日(日) 対象:中堅教員 内容:中堅教員にとっての役割とは何かを知り、神韻の指導育成の目標管理や新任の能力、メンバーシップを引き出すための適切な指導助言ができることで、学校全体の教育の水準の向上をめざす。</p>
<p>研修名「第3回 福岡2地区研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:10月4日(木) 対象:教員 内容:理学療法の最新の知見を学ぶとともに、その内容を教育に還元する。</p>
<p>研修名「平成30年度 新人研修会(福岡)」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:1月13日(日) 対象:教員 内容:理学療法士として、の倫理観や関係法規、教会組織編成や生涯学習システムについて学び教育に還元する。</p>
<p>研修名「平成30年度 臨床実習指導者研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:1月27日(日) 対象:教員 内容:臨床実習におけるチェックリストの活用法や学生の関わり方を学びの臨床実習の質の向上を図る。</p>
<p>研修名「第28回 福岡県理学療法士学会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:2月3日(日) 対象:教員 内容:レガシーの認識と革新について学び、その内容を教育に還元する。</p>
<p>(3)研修等の計画</p>
<p>①専攻分野における実務に関する研修等</p>
<p>研修名「ハワイ研修」(連携企業等:Rehabilitation Hospital of the Pacific 等) 期間:4月8日(月)~4月13日(土) 対象:教員 内容:リハビリテーション医療の海外視察において、日本と比較して保険制度・理学療法士の教育・地位・治療における考え方などの相違点を知る。また、治療・訓練においては、その考え方についても意見交換をとおして深く学ぶ。</p>
<p>研修名「理学療法臨床研究」(連携企業等:九州地区上田法治療研究会) 期間:5月18日(土)~5月19日(日) 対象:教員 内容:上田法を中心とした実技講習を通して、小児リハビリテーションに関して理解を深める。</p>

<p>研修名「入谷式足底板中級セミナー」(連携企業等:足と歩きの研究所) 期間:7月14日(土)~15日 対象:教員 内容:足底板作成に関する講習会。足底板作成のポイントや、動作評価法等を学ぶ。</p>												
<p>研修名「認知神経リハビリテーション学会」(連携企業等:一般社団法人認知神経リハビリテーション学会) 期間:9月14日(土)~9月15日(日) 対象:教員 内容:認知リハビリテーションに関する実技及び講義</p>												
<p>研修名「理学療法臨床研究」(連携企業等:NPO法人 KNERC) 期間:1月18日(土)~1月19日(日) 対象:教員 内容:最新の医学的知識や幅広い見識を高める。</p>												
<p>研修名「新人研修」(連携企業等:白十字病院) 期間:6月30日(日) 対象:若手教員 内容:若手理学療法士に必要な治療技術や知識の伝達講習。</p>												
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p>												
<p>研修名「第1回 福岡2地区研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:4月26日(土) 対象:教員 内容:ウィメンズヘルスについて理学療法の最新の知見を学ぶとともに、その内容を教育に還元する。</p>												
<p>研修名「第2回 福岡支部研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:5月25日(土) 対象:教員 内容:診療参加型実習の考え方と指導方法について、理解を深めるとともに、具体的な進め方を学び、臨床実習の質を向上させる。</p>												
<p>研修名「学校保健等教育関連理学療法研修会」(連携企業等:公益社団法人 理学療法士協会) 期間:7月28日(日) 対象:教員 内容:学校保健領域における理学療法士の役割と可能性に関する研修会</p>												
<p>研修名「第3回 福岡支部研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:9月1日(日) 対象:教員 内容:歩行のバイオメカニクスについて理学療法の最新の知見を学ぶとともに、その内容を教育に還元する。</p>												
<p>研修名「第4回 福岡支部研修会」(連携企業等:福岡県理学療法士会) 期間:11月10日(日) 対象:教員 内容:3症例のクリニカルリーズニングを通して脳卒中の歩行障害を考え、その内容を教育に還元する。</p>												
<p>研修名「FD・SD研修会」(連携企業等:福岡医療専門学校) 期間:6月15日(土)、10月5日(土) 対象:教員 内容:全教員参加による教員の資質向上と学術研究、指導法の発表による研修会</p>												
<p>4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>												
<p>(1)学校関係者評価の基本方針</p> <p>本校は自己点検・自己評価委員会を設置して、①教職員全員による自己点検・評価、②学校関係者(企業等の役員又は職員、地域住民、保護者、校友会会長等)による評価を実施し、その結果についてこの報告書にまとめ、ホームページに公表する。</p>												
<p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td>・理念,目的,育成人材像 ・学校の特色 ・学校の将来構想</td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td>・運営方針・事業計画・運営組織,意思決定効率化・人事,賃金制度 ・意思決定システム・情報システム化等による業務効率化</td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td>・教育目標,育成人材像,到達レベル・カリキュラム・授業評価・教員確保 ・単位認定・資格取得</td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td>・就職率向上・資格取得率向上・退学率低減・社会的活躍,評価の把握</td> </tr> <tr> <td>(5)学生支援</td> <td>・就職,進学・学生相談・経済的支援・健康管理・課外活動・生活環境 ・保護者連携・卒業生支援</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	・理念,目的,育成人材像 ・学校の特色 ・学校の将来構想	(2)学校運営	・運営方針・事業計画・運営組織,意思決定効率化・人事,賃金制度 ・意思決定システム・情報システム化等による業務効率化	(3)教育活動	・教育目標,育成人材像,到達レベル・カリキュラム・授業評価・教員確保 ・単位認定・資格取得	(4)学修成果	・就職率向上・資格取得率向上・退学率低減・社会的活躍,評価の把握	(5)学生支援	・就職,進学・学生相談・経済的支援・健康管理・課外活動・生活環境 ・保護者連携・卒業生支援
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目											
(1)教育理念・目標	・理念,目的,育成人材像 ・学校の特色 ・学校の将来構想											
(2)学校運営	・運営方針・事業計画・運営組織,意思決定効率化・人事,賃金制度 ・意思決定システム・情報システム化等による業務効率化											
(3)教育活動	・教育目標,育成人材像,到達レベル・カリキュラム・授業評価・教員確保 ・単位認定・資格取得											
(4)学修成果	・就職率向上・資格取得率向上・退学率低減・社会的活躍,評価の把握											
(5)学生支援	・就職,進学・学生相談・経済的支援・健康管理・課外活動・生活環境 ・保護者連携・卒業生支援											

(6)教育環境	・施設,設備・字外美容,インターンシップ,海外研修等の実施・防災体制
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動,教育成果・入学選考・学納金
(8)財務	・中長期的財務基盤・予算,収支計画
(9)法令等の遵守	・法令,設置基準等・個人情報保護・自己点検,自己評価の実施等
(10)社会貢献・地域貢献	・社会貢献の実施・学生ボランティア活動支援等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

平成31年度は自己点検・評価報告書を資料にして、教職員と意見交換を実施しながら、学校関係者評価委員会を行った。

【本学院並びに本学科に対する提言は以下の通り】

- 1.医療人として、挨拶等社会性を含めコミュニケーション能力を向上を求める指導をしなければならない。
- 2.職業実践専門課程の主旨である、「実践的な教育活動に対する積極的な取り組み」を進めていることは理解できる。次のステップアップに向け、学校全体での取り組みを期待する。
- 3.国家試験の出題傾向が変化している学科があるので、変化に対応できる学習指導をしてもらいたい。
- 4.教職員の教育指導向上を図るため、FD研修会や外部の研修会、学会への参加を継続的に行うよう努めてもらいたい。

以上の学校関係者評価委員より得た意見を、運営会議、教職員会議等において学校全体で共有し活用する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
北原 孝子	朝日ホーム有限会社 顧問	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	地域住民
下迫 勇夫	福岡医療専門学校 非常勤講師	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	有識者
上野 啓介	うえの整骨院 院長 6期卒業生	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
松山 基光	松山整骨院 院長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
馬場 鮎美	福岡東鍼灸整骨院 副院長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
木下 健一郎	有限会社ひかり(通所介護ライズ) 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
山中 知愛	医療法人西福岡病院 放射線科 科長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
池田 悦子	医療法人正明会 福岡整形外科病院 相談役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・毎年度7月末)

URL:<http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対する情報提供は、本校ホームページにおける情報公開を基本とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念・概要と沿革
(2)各学科等の教育	・理学療法科紹介・カリキュラム,取得単位数,目指す資格 ・理学療法士の概要,国家試験合格実績
(3)教職員	・主たる教員紹介およびセミナー紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・セミナー・臨床実習・就職キャリア支援・主な就職先
(5)様々な教育活動・教育環境	・学生へのフォローアップ・施設,設備
(6)学生の生活支援	・学生寮
(7)学生納付金・修学支援	・学納金納入・奨学金・入学前サポート
(8)学校の財務	・事業報告書・計算書類
(9)学校評価	・第三者評価・一般社団法人リハビリテーション評価機構 認定証 ・学校関係者評価・自己点検,自己評価
(10)国際連携の状況	・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL:<http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法科) 平成31年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	患者等の心理をより深く認識するとともに、心理面でのサポートをするための知識を身につける。	1 ①②	60	4	○			○			○	
○			表現法Ⅰ	社会通念上必要な敬語、接遇などの学習をとおして、医療人として患者等に対する適切な接遇能力を修得する。	1 通	30	2	○			○			○	
○			表現法Ⅱ	表現法Ⅰで修得した接遇をさらに深化させ、医療人として患者等や臨床実習指導者に対する適切な接遇、及び文章表現力（レポート、論文等）を修得する。	2 通	30	2	○			○			○	
○			社会学	生命倫理、人権とその尊厳について学び、社会集団とその発達・課題について理解を深めることにより、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を修得し、よりよい社会人としての資質を身につける。	1 ①②	60	4	○			○			○	
○			生物	からだの構造やその働きを動植物を通して学ぶことにより、基礎医学に必要な人体の機能を統計立てて理解する能力を修得する。	1 ① 2 ①	30	2	○			○		○		
○			保健体育	自ら体力の向上と把握に務め、健康管理と安全教育の徹底を行うとともに、自主自立の精神を身につける。	1 通 3 ①②	90	2			○	○		○		
○			外国語Ⅰ	医療に関する英語を学習することによって、国際化及び情報化社会に対応できる能力を身につける。	1 通 2 通	60	4	○			○			○	
○			外国語Ⅱ	外国語Ⅰの知識をもとに、医療人として必要な専門的知識を英語で理解できる能力を修得する。	3 ①②	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	主として、解剖学概説、骨格、筋、脈管、体表解剖の学習をとおして、人体の構造と機能および心身の発達を系統立てて理解する能力を修得する。	1 ①② 4 通	120	4	○			○		○	○	
○			解剖学Ⅱ	主として、組織、内分泌、内臓、神経、感覚器、映像解剖の学習をとおして、人体の構造と機能および心身の発達を系統立てて理解する能力を修得する。	1 通 4 通	120	4	○			○		○	○	
○			生理学Ⅰ	主として、基礎、血液、循環、呼吸、消化吸収、栄養代謝、体温、尿、生殖の学習をとおして、身体に起こる化学的変化を生理学として捉え、理解する能力を修得する。	1 ①② 4 通	120	4	○			○		○		
○			生理学Ⅱ	主として、内分泌、骨、体液、筋肉、神経、感覚の学習をとおして、身体に起こる化学的変化を生理学として捉え、理解する能力を修得する。	1 通 4 通	120	4	○			○		○	○	
○			運動学Ⅰ	力学基礎や上肢・下肢・体幹の運動について学び、その運動を基礎として動作や行為を論理的に説明できる知識を習得する。	1 通 2 ①	90	3	○			○		○	○	
○			運動学Ⅱ	力学、解剖学及び生理学を身体運動の基礎的知識を活用して理解するとともに、動作や行為を論理的に説明できる知識を習得する。	2 ③ ③ ①②	60	2	○			○		○		
○			人間発達学	小児に対して理学療法を実践する上で必要となる正常発達の過程について、中枢・運動器系及びその他の相互作用の面から理解を深める。	1 ①②	30	1	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			病理学概論	病理学は疾患像を把握するために最も重要な科目であり、総論・各論と基礎病変をとおしてその定義を正確に理解する。	2 ①② 4 通	90	3	○			○	○	○		
○			一般臨床医学Ⅰ	自己免疫疾患、呼吸器疾患、循環器疾患などの疾患像を把握し、その疾患への対応の重要性を認識しつつ、臨床医学を現場で発揮できる能力を身につける。	2 ①② 3 ①	90	3	○			○	○	○		
○			一般臨床医学Ⅱ	健康、疾病及び障害について、心電図や血圧計などの器具を用いて、予防と回復過程に関する医学的な知識、並びに患者等心理を熟考できる技術を修得し、理解力、観察力、判断力を身につける。	2 ② 3 ①② 4 通	90	3	○			○	○	○		
○			整形外科学	骨関節疾患を中心とした手術法や術後理学療法の学習をとおして、整形外科疾患に対する病態や疾患像についての理解を習得する。	2 ①②	60	2	○			○	○			
○			神経内科学	神経疾患の障害像を認識しつつ、その医学的対処法などを理解し、解剖学を基盤とした神経の知識を神経脱髄疾患などに応用する能力を修得する。	2 ①②	60	2	○			○	○			
○			精神医学	心と精神の構造を理解し、自己分析・他者の客観的分析により、心理面から「病む」という状態について理解する。	3 通 4 通	60	2	○			○	○			
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの適応疾患について概略を知るとともに、評価、治療の基礎知識についての学習をとおして、国民の保健医療福祉の推進のために、理学療法士が果たすべき役割について理解する。	1 ②③	30	1	○			○	○			
○			リハビリテーション概論	リハビリテーション領域について、全体を把握することを目的とし、その中で理学療法の位置づけ、役割について理解を深める。	1 ①②	30	1	○			○	○	○	○	
○			理学療法概論	理学療法の歴史・関係法規をはじめとする理学療法を取り巻く環境について理解する。	1 ①②	60	2	○			○	○			
○			臨床運動学Ⅰ	人間の動作や運動に関わる人体の解剖学的構造、生理学的機能及び各種運動・動作との関係について理解する。	1 ③ 2 ①③	60	2		○	○		○			
○			臨床運動学Ⅱ	臨床運動学Ⅰで学んだ解剖学的構造、生理学的機能を基に生体力学的変数と、運動障害がある場合の各種運動・動作との関係や相違点について理解を深める。	4 通	60	2	○			○	○			
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価学の総論、各評価法の意義、方法、技術および評価結果の解釈と統合について、講義、演習をとおして理解を深める。	1 ②	30	1			○	○	○			
○			理学療法評価学Ⅱ	主として、上肢、下肢の6大関節を中心とした学習をとおして、理学療法評価において欠かせない徒手筋力検査法を実技によって修得する。	3 ①②	60	2			○	○	○			
○			理学療法評価学Ⅲ	理学療法評価学Ⅰ、Ⅱで身に付けた知識をさらに深化させるため、肢位や体位の変化を少なくし患者等への負担を減らすように技術を修得する。	2 ③ 3 ① 4 通	60	2			○	○	○			
○			運動療法学Ⅰ	運動療法の歴史、理論的体系とそのEBMを理解するとともに、治療体操、関節可動域運動、筋力増強運動等、その他各種器具を使用した運動療法を座学及び実技をとおして習得する。	2 ①②	60	2	○		△	○	○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			運動療法学Ⅱ	運動療法Ⅰの発展として、疾患別、障害別の運動療法を理解するとともに、主として、中枢神経疾患、神経筋疾患、骨関節疾患、代謝性疾患、切断、熱傷、小児、老年期の運動療法を実施できる能力を修得する。	2 ③ 3 ①②	60	2	○		△	○		○		
○			運動療法学Ⅲ	呼吸・循環器および代謝性疾患の概念・症状・障害を理解することをとおして、治療学およびリハビリテーション的な思考過程を身につける。	4 通	60	2			○	○		○		
○			物理療法学	物理療法機器の種類やその科学的特性を理解するとともに、その目的、効果、適応、禁忌、操作法について理解を深める。また各種疾患の身体的特徴に適した機器を選択し、適応できる能力を身につける。	2 通	60	2	○		△	○		○		
○			日常生活活動学Ⅰ	理学療法士の役割の視点から、基本的動作の臨床観察ポイントを把握するとともに、各種疾患の身体的特徴と、その日常生活活動について修得する。	2 ①②	60	2			○	○		○		
○			日常生活活動学Ⅱ	日常生活活動学Ⅰの発展として、疾患別、障害別の日常生活活動について理解し、その指導法や技能を修得する。	2 ③ 3 ①②	30	1			○	○		○		
○			義肢装具学Ⅰ	義肢装具および車椅子、および歩行補助具について種類、構造、機能、適合判定について理解を深めるとともに、基本的な訓練、技能を身につける。	2 ①②	30	1	○		△	○		○		
○			義肢装具学Ⅱ	義肢装具Ⅰを基礎として車椅子、切断者における理学療法や、切断各種症例を検討することにより、さらなる理解を深める。	3 ①②	60	2	○		△	○		○		
○			理学療法技術論Ⅰ	障害の程度を把握するために必要な検査・測定技術及び各種疾患に対する介助法を修得する。	1 ①	30	1			○	○		○		
○			理学療法技術論Ⅱ	理学療法評価のうち、検査実技及び各疾患への検査の意義・方法・解釈について理解し、実施できる。	1 ③ 2 ①②	30	1			○	○		○		
○			理学療法技術論Ⅲ	運動器疾患に必要な整形外科的検査の意義・方法・解釈について理解し、実施できる。	2 ①	30	1			○	○			○	○
○			理学療法技術論Ⅳ	心疾患、呼吸器疾患の障害像を把握するとともに、必要な検査・測定技術及びその疾患に対するリスク管理や運動療法を修得する。	3 通	60	2	○		△	○		○		
○			理学療法技術論Ⅴ	義肢装具、車椅子及び歩行補助具について種類、構造、機能、適合判定について理解を深めるとともに、各種疾患の身体的特徴に適した機器を選択できる能力を身につける。	4 ①②	30	1	○			○		○		
○			地域リハビリテーション	地域におけるリハビリテーションの広がりとその社会的背景を学ぶことによって、地域リハビリテーションの歴史とその沿革について理解する。	2 ②	30	1	○			○			○	○
○			地域理学療法学Ⅰ	地域における理学療法の広がりとその社会的背景を学ぶことによって、地域理学療法の歴史とその沿革について理解する。	2 ③ 4 通	30	1	○			○		○		
○			地域理学療法学Ⅱ	地域理学療法学Ⅰの知識を応用し、理学療法士としての家庭環境や社会環境への具体的なアプローチについて理解を深める。	4 通	30	1	○			○		○		
○			生活環境論	社会保障制度と実生活の繋がりを理解した上で、ノーマライゼーションの定義に基づいた環境整備の具体的な方法と、個人を取り巻く環境が与える因子について理解する。	2 ②	30	1	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			見学実習	病院・施設の機能、各医療従事者と患者等の関わりや理学療法士の業務と範囲、さらに患者等の抱える心理的・身体的・社会的な種々の問題点について学ぶ。	1 ①	24	0			○		○			○
○			ADL体験実習	介護支援を実体験することにより、施設利用者のADLを中心とした活動制限の実態を把握する。また、態度や話し方などをはじめとする情意領域での気づきを深める。	2 ②	23	0.5			○		○			○
○			検査測定・評価実習	検査測定実習では、既習範囲の基本的検査及び測定の実施法、選択、解釈について、実際の患者等に対して実施する。同時に患者等へのアプローチや問診、検査方法（手順）等の技能及び態度を学ぶ。	3 ②	158	3.5			○		○			○
○			長期実習Ⅰ	臨床実習指導者の指導・監督のもと、検査測定・評価実習で修得した技術を基にプログラムを作成し、治療を実施することによって、臨床現場に必要な基礎能力を養い、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。	3 ③	315	7			○		○			○
○			長期実習Ⅱ	臨床実習の総括として位置付け、臨床実習指導者の指導・監督のもと、長期実習Ⅰでの経験を活かし、一貫したプログラムの作成、経過観察、治療及び再評価をとおして、その適否や有効性を深く考察することにより臨床応用能力を修得する。	4 ①	315	7			○		○			○
		○	解剖学基礎	入学直後より実施し、解剖学の予習と位置付け、解剖学履修前に、骨格筋、脈管、体表解剖についての理解を深める。	1 ①	16				○		○			
		○	生理学基礎	入学直後より実施し、生理学の予習と位置付け、生理学履修前に、血液、循環、呼吸、消化吸収、栄養代謝、体温、尿、生殖についての理解を深める。	1 ①	16				○		○			
		○	進級学力演習 〈解剖・生理〉	解剖学・生理学の総括と位置付け、筋肉、骨、神経、内臓、感覚等についての理解を深める。	1 ③	16				○		○			
		○	進級学力演習 〈臨床医学・PT基礎〉	生理学の総括と位置付け、筋肉、骨、神経、内分泌、感覚等についての理解を深める。	2 ③	16				○		○			
		○	進級実技演習 〈ROM・形態測定〉	臨床実習に対応できるよう、関節可動域測定および形態測定の技術修得を目的として、少人数制講義を取り入れる。	1 ③ 2 ③	32				○	○		○		
		○	進級実技演習 〈評価〉	臨床実習に対応できるよう、バイタルサインの測定・評価を中心とした技術修得を目的として、少人数制講義を取り入れる。	2 ③	8				○	○		○		
		○	進級実技演習 〈介助〉	臨床実習に対応できるよう、これまで学んだADLの知識を総括するとともに、少人数制講義を取り入れ各疾患における介助技術を修得する。	1 ③	16				○	○		○		
		○	読影法	X線やCT、MRI画像についての基本的な読影法を習得する。	2 ③	16				○		○			
		○	リンパ浮腫治療学Ⅰ	日本におけるリンパ浮腫の現状やリンパ浮腫の治療、並びに循環器系の全体像、血液とリンパ液の循環などの基礎医学知識を修得する。	1 ③	16			○	△		○			
		○	リンパ浮腫治療学Ⅱ	リンパ浮腫治療の適応と禁忌、指導管理を理解し、リンパ浮腫患者に対する多層包帯圧迫法などの治療技術を修得する。	2 ③	32				○		○			
		○	リンパ浮腫治療学Ⅲ	リンパ浮腫治療の適応と禁忌、指導管理を理解し、リンパ浮腫患者に対するドレナージなどの治療技術を修得する。	3 ②③	34				○		○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	脳卒中リハビリテーション学	脳血管障害の疾患・障害像を把握し、必要な検査・測定技術及びその疾患に対するリスク管理や運動療法を修得する。	3 ①②	60		○		△	○		○		
		○	小児リハビリテーション学	脳性麻痺を中心とした小児疾患について、リハビリテーションの視点から学習する。関連する補装具、地域支援などについて知見を広める。	3 ①② ③	25		○			○		○		
		○	臨床実習演習	検査測定・評価実習に必要な基礎学力の向上や、課題レポートやレジュメ作成に必要な技術を学習する。	3 ①②	46				○	○		○		
		○	総合演習Ⅰ	理学療法評価学の知識を活用して、得られた情報からの統合・解釈を展開し、国家試験問題への対応力を身につける。	4 通	54		○			○		○		
		○	総合演習Ⅱ	整形外科理学療法の知識を活用して、得られた情報からの統合・解釈を展開し、国家試験問題への対応力を身につける。	4 通	64		○			○		○		
		○	総合演習Ⅲ	X線やCT、MRI画像の読影法について、国家試験問題への対応力を身につける。	4 ②	10		○			○		○		
合計			68科目		3420単位時間(114単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学年末・各学期末に行う試験・実習の成果・履修状況等を総合的に勘案し行う。 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないとする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。